

月刊
JMITU

デイクナ



平和憲法のある町

10月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2025年発行

No.490

2025年秋闘・年末一時金要求提出

私達労働組合（JMITU）は、10月8日にセガ、SLSに対し、秋闘・年末一時金要求を提出しました。

要求内容は以下の通り

・アルバイト、パートタイマーの時給を最低2000円以上にすること。

・アルバイト、パートタイマー、派遣・請負社員を本人の希望があれば正社員にすること。

・アルバイト、パートタイマーに退職金制度を設けること。

・希望する者には定年退職を65歳までにすること。

・昇格の基準を明確にし、社員が納得できる昇格制度にすること。

・人事制度において評価給がテールの上段に達した場合、昇格試験の機会を与えること。

・1日実働7時間、週5日制、35時間労働とすること。

・高齢者再雇用における有期契約社員の給与を、定年時の月額基準内賃金の80%で算定し支給すること。希望するものは70歳まで再雇用すること。

・リロクラブポイントを年間10万円分にする。アルバイト、パートタイマーにもポイントを付与すること。

・事業所の移転・統廃合、会社分割・合併・営業譲渡など企業組織の変更、子会社の設立、海外への生産移転、工場・営業所の進出、新業種の進出・業種転換、資本の移動、企業間提携、廃業、企業倒産にかかわる私的・法的手続きの申立・実行、その他、重要な経営施策の変更については、労働組合と事前に協議し、同意を得たうえで実行すること。

・退職金を、勤続1年につき基準内賃金の2ヶ月分とすること。

・家族手当を配偶者3万円、子（出生児から高校卒業まで）2万円とすること。

・業務外傷病有給休暇取得にて、診断書代の実費を会社負担とすること。

・社会保険料の負担割合を労使3対7にすること。

・本人が結婚するときの結婚休暇は、連続2週間（休日含む）とし、子供が結婚するときは3日（休日含まず）とすること。

・アルバイト、パートタイマーに社員同様、慶弔休暇を付与すること。

・家賃補助について家賃の30%を会社が支給すること。

・災害等による自宅待機や早退・遅刻について、正規、非正規にかかわらず賃金を100%保証すること。

・時間有給を取得できるように制度として導入すること。（SLSのみ）

年末一時金

・2025年年末一時金として、基本給の4カ月分を支給すること。有期契約社員にも正社員同様支給すること。ただし査定を行わないこと。及びパートタイマー、アルバイト従業員にも、年末一時金を支給すること。

(セガ)

・2025年年末一時金として、賞与資格別基準額を2万円底上げし、係数4.0を支給すること。有期契約社員にも正社員同様支給すること。ただし査定を行わないこと。及びパートタイマー、アルバイト従業員にも、年末一時金を支給すること。

掌編小説

古書と古着

仙洞田一彦

はつきりしない天気が続いていた。そう思っていたら、急に寒さを感じた。ラジオから聞こえた言葉だったと思うたが、たしかに秋がなくなっってしまったような感じだ。猛暑が続いた時は、散歩に出られなかったというか、外に出ることなど考えられなかった。秋、そうだ秋の長雨というから、雨続きの今は寒くても秋かも知れない。猛暑との温度差で、冬と感じたのかもしれない。季節の変化について行けない。

曇りの日が続くと、気分もふさぐ。若い時は、そんなことを考えている暇はなかった。

会社に出勤するしかないのだ。出勤して働くしかない。空模様なんか見ている暇はなかった。空を見てうんざりしているなんて老人の贅沢時間だ。

そういう思いが浮かぶこともあるが、気分がふさぐのはどうしようもない。老いのうつ状態か。カーテンを開けて空を見た。灰色一色だ。天気予報は、曇り空だが、雨はなようなことを言っていた。

——よし出掛けよう。

念のため折り畳み傘を鞆に入れた。喫茶店と、往復の電車で読む文庫本も一冊入れた。雑記帳も持った。鞆を肩にかけて外に出た。

——寒い。

部屋に戻って、一枚着るか。でも、歩いているうちに体も温まるだろう。気合いだ。

行き先はすでに頭にあった。

電車で片道三、四十分のところにある商店街。駅から十分ほど歩くあいだに、古書店が四軒あった。車が入らない道路は歩きやすい。失礼だが、歩いている人たちが私と同じくらいの生活水準を思わせる。地元の商店街を歩いているのと変わらない。それなら何も電車賃をかけてまで遠くに行くことはない。家の近くの散歩なら、雨もそれほど気にかけることもないだろう。降り始めたらずぐに戻ればいい。

わざわざ出かけるのは古書店の存在だ。特に探している本もない。急いで手に入れて読まなければならない本もない。新しい本なら遠くに出かけなくても、減ったとはいえ新刊本の本屋さんはある。

ネットで買えばいいと言われるかもしれない。いまはインターネットで購入という便利な時代になった。いや、私が古書店に行くのは、散歩も兼ねている。インターネットで散歩の代用は出来ないと言えるが。そう言ったら、インターネットで注文してから、散歩で近くを歩いてくればいいと言われるかもしれない。

古書店の本棚を眺めていると、鬱屈した気持ちが無くなる。よくは分からないが、スポーツが発散するのだ。スポーツ選手が汗を流すのと同じなのかナアとも思うが、よくは分からない。

それなら自分のうちの本棚でも眺めていても同じかもしれないが違うのだ。発見がある——なんて言うとかける

口実のようだ。でもほしい本が百円、二百円で手に入る。

その程度の発見では、私の考えている程度の低さの証明。

——あつ、安い。

これがまずい。いや、うちにあるかなあ、なかったかなあと、その本を前にして考える。しかし、この値段なら、たとえうちにあったとしても、などと思いつめらせているうちに本棚に手が伸びてしまう。古書店の本は新刊本と違って、目の前にあるのを買わないと、手に入らなくなる可能性もある。これも言い訳につながるのかなあ。買ってきて帰って見ると、我が家の本棚に同じものがある。あるかもしれないと思つて買ったのだと、自分言い聞かせるといふか、慰める。しかし、百円、二百円

と言つても積み重なれば、バカにできない。

見なれた、歩きなれた街に着いた。張り切つて、しかし他人から見たらトボトボと歩きはじめる。一軒、二軒、三軒、四軒と歩いてきた。一冊も買わなかった。でも満足。掘り出し物があれば、それに越したことはないが、十分。充分。

さて引き返そう。四軒目の店を出て、その先を見ると「古書」と書いた新しい看板が目についた。あれ、「新しい店」と、口に出して言つてよく見た。以前、「古着」とあったのを「古書」と読み間違えたことがあった。

校正をしていると、思い込みで読んでいることがある。校正は書いてある字が間違っていないかどうかを点検する

ことだ。書いてある字を読まなければいけない。当たり前のことだが、思い込みで読んでいるが、読んだつもりでいる。

店の前まで行ったら、洋服掛けが何列も並んでいて、それに服が一杯ぶら下がっていた。これぞ思い込みの読み。

——新刊本も古書も店がなくなっている時期に、新たに出店するのもいまいだろう。

頭が「古書」になつていたのは、私の頭の切り替えが、時代に追いついていないこともある。時代は良くも、悪くも変化しているのだ。

経験から、手をかざしてよく見ても「古書」であつて「古着」ではなかった。目測にして百メートルか。四軒目までの予測脳だから、足も限界に

きている。いつもなら、ここでき返し、駅に近い所まで行つて喫茶店に入り、コーヒーで一休み。

でも、今まで何度も来ていて、その先を見ないというところはないはず。路地があれば、路地の先を見て「古書」の看板がないか見るくらいだ。いままで見落としていたのか。離れているからよく分からないうが、新しい看板でもなさそうだ。

「老いてもチャレンジ」。これが老化防止の決め手。トボトボ、トボトボと歩き出す。

書くのはここまで。「古書」だったか「古着」だったかは、読者のご想像にお任せ……これでは書いたと同じか。思い込みが、いちじるしくなるのも老化現象。